

## 協定校留学【終了】報告書

※現地の様子や大学の風景、ご友人との写真を添付して頂けると大変参考になります。ご協力ください。

※帰国後1カ月以内に提出(送信)してください。

※津田塾大学海外留学(派遣・受入)奨学金受給者はこの報告書をもって奨学金受給者報告書とします。

留学先大学	ディーキン大学	氏名	
国名	オーストラリア	学籍番号	
留学期間	2022年 9月 ~ 2023年 6月	記入年月日	2023年 6月 29日

1 履修したすべての科目についてお書きください			
主な専攻分野: Bachelor of Arts, Bachelor of humanity			
科目名	Global challenges and personal agency	科目名	Global media
授業内容	地域の問題を国際問題に当てはめ、それに対して個人がエージェンシー(主体性の概念)としてどう行動できるのかを考えていく授業です。	授業内容	グローバル化が進む現代社会でメディアがどのような役割を担っているのか分析し、議論する授業です。
授業形式	授業: 大教室講義/セミナー: 少人数ディスカッション	授業形式	セミナー: 少人数ディスカッション
単位数	1(授業1時間/週とセミナー1時間/週)	単位数	1(セミナー2時間/週)
サイズ	セミナーは20人程度	サイズ	20人程度
難易度 Course No.	難しい	難易度 Course No.	普通
宿題の量	予習(文献やビデオ)	宿題の量	予習(なくてもいける)
コメント	一言で言うと、現代らしい、私が海外留学で求めていた授業でした。授業では、環境、貧困、政治、経済など特定の分野のスペシャリストによるパネルディスカッションや彼らのフィールドワークを学ぶことができ、多角的な視点から国際問題の原因を学ぶことができました。世界中で起きている様々な事象に関するトピックがあり、地域課題に対して個人としてどう動けるのかという答えのないクリエイティブな課題が多かったです。	コメント	少人数のクラスで、内容にはなじみのあるトピックが多かったです。しかし、急にディスカッションが始まる場面があるので、パワーポイントに目を通してその内容についての自分の考えを持っておくことが重要であると思います。比較的発言しやすい環境にあると感じたので、勇気を出して自分の意見を述べると、内容に関わらず先生が評価してくれました。
科目名	Introduction to sociology	科目名	
授業内容	社会の事象を社会学的想像力を用いて考える授業でした。トピックは古典的な社会学から現代における移民・難民、そして家族や恋愛についてを分析していく授業でした。	授業内容	
授業形式	授業: 大教室の講義/セミナー: 少人数ディスカッション	授業形式	
単位数	1(授業1時間/週とセミナー1時間/週)	単位数	
サイズ	セミナーは20人程度	サイズ	
難易度 Course No.	普通	難易度 Course No.	
宿題の量	予習(なくてもいける)	宿題の量	
コメント	社会学的想像力について理解するのに時間がかかりました。津田塾大学でも1年時に社会学を受講していましたが、日本の視点と異なっていると感じ、新鮮な気持ちで知識を得ることができました。セミナーでは現代の事象について話すことが多かったのですが、家族や恋愛、人種や移民についての知識がネイティブの学生と差があり、考えを理解することに時間がかかってしまい、あまり自分の意見を述べるができなかったことを後悔しています。	コメント	

2	<p>授業において困ったこと、その解決法について教えてください</p> <p>語学学校:日本人が8割以上で、授業中や休み時間に日本語を話してくる人が多く困っていました。2割の日本人以外の学生に積極的に話しかけ仲良くなるのが重要で、そうすれば英語漬けの日々を送ることができるはずですが、授業の内容としては、大学の授業についていくために必要な基礎能力を学びましたが、エッセイの中身よりもreferenceの書き方に苦戦しました。何度も復習をすることで解決しました。学部授業:学生の中で日本人はおろかアジア人が少なくネイティブばかりです。授業は講義とディスカッションが1対1の割合であり、ディスカッションでネイティブのとても早くオーストラリアアクセントのある英語にまず苦戦します。私は、留学から5か月がすぎているのですがアジア人の友達が多かったため、適応することに時間がかかりました。また、エッセイの難易度が語学学校とは比にならないレベルで高く、課題内容を理解することに時間がかかりました。そのためまずは授業をしっかり集中して受け、先生に積極的に質問することが重要です。わからないことはすぐに聞きましょう。</p>			
3	<p>授業以外の活動についてお書きください</p> <p>語学学校内のボランティアに参加しイベント等で学生のサポートを行いました。最終的にボランティアの数が多くなりすぎてイベントごとにメールでのイベント報告は一部のボランティアのみに通告され、あまり活動できませんでした。アルバイトは12月の夏休みのタイミングで探しており、韓国料理の店でトライアルをして採用になりましたが、学校が忙しすぎてあまりシフトに入れず一度も働かずに終わってしまいました。また、現地の日本人コミュニティでインターンとして、言語交流会などイベントの企画、運営を行いました。さらに、大学の授業が終わった5月末からは、seekで探した自然環境ボランティアに週1で参加し、地域の人々と公園の除草作業、植栽などの活動に従事しました。</p>			
4	<p>寮(またはアパート、フラット)の生活について教えてください</p> <p>寮(またはアパート、フラット)名とその場所</p> <p>語学学校の間はホームステイ(大学までバスで50分、シティまでは電車で25分)、学部に移ってからは隣接する寮(徒歩5~10分)に滞在しました。</p> <p>設備についての簡単な説明</p> <p>ホームステイ:2階建てで1階はキッチン、リビングやホストファミリー専用の部屋、トイレ、シャワーがあり、2階はホームステイ用の3部屋、トイレ、シャワー、ソファやテレビがあった。シャワーの時間などは決められておらず、自由だった。洗濯は週に1度で、物干しざおや洗濯機は共用でした。</p> <p>寮:MB,MC,MD, student villegeがある。MBは24時間体制の受付があった。私はMDに住んでいたがランドリールームやGarbage binがMCにあったため移動してそれぞれ行っていました。MDにはスタディールームが一つあるが、埋まっていることが多いのでMCの広い共有スペースで勉強することもありました。部屋は6人部屋でソファやテレビなどが共有スペースにあり、シャワーとトイレは2つずつありました。(男女共用)</p> <p>部屋について</p> <table border="1" data-bbox="177 1115 1490 1153"> <tr> <td>6 人部屋</td> <td>広さ</td> <td>6 畳くらい</td> </tr> </table> <p>ルームメートについて</p> <p>オーストラリア人の男の子が2人、女の子が1人、そしてマレーシア人の女の子が一人とベトナム人の男の子が1人でした。オーストラリア人の子たちはキッチンであいさつする程度でしたが、アジア人の二人とは意気投合して一緒にディナーやお菓子を作ったりシティに遊びに行ったりと、かなり仲良くしてくれたおかげで、有意義な寮生活を送ることができました。</p> <p>寝具や生活用品の入手方法</p> <p>寝具や生活用品はKマートやダイソーで調達しました。近くにはチャドストーンショッピングセンター(バスで30分)、Burwood east(トラムで10分)、Boxhill(バスで10分)などがあるので、必要に応じて買い物に行っていました。トイレトペーパーは寮が支給してくれます。</p> <p>生活の感想</p> <p>ホストファミリーはとてもやさしかったのですが、心配性なのか過保護に感じることもありました。しかし就活のセミナー等に合せて夕食を早めてくれたり、引っ越しの際に車を出してくれたりとお世話になりました。寮では、定期的開催されるBBQやゲームなどのイベントがあり、楽しめました。テスト期間は、24時間開いている図書館や寮内のstudy roomを利用できたので、長いエッセイも集中して取り組むことができ、メリハリをつけた生活ができました。</p>	6 人部屋	広さ	6 畳くらい
6 人部屋	広さ	6 畳くらい		
5	<p>食事についてコメントを書いてください</p> <p>ホームステイでは3食(朝:パンかシリアル、フルーツ 昼:前日の夕食 夕食:ランダム)出ました。夕食はアジア料理が多く、主食はご飯でした。カオマンガイやブルコギ、ステーキがおいしかったです。時々、おこぼれとしてお菓子やアイスをもらえることがありました。</p> <p>寮では基本的に自炊をしていました。Boxhillやシティにはアジアンスーパーがあるので、日本的な味が恋しくなった時には日本食を作っていました。寮の友人と共にご飯を作ることもありました。</p> <p>時には大学のカフェで食事をすることもありましたが、円安の影響で値段が高く感じたので飲み物程度で我慢することが多かったです。</p>			

6	医療保険についてお書きください
	渡航前に加入した保険
	OSSMAの上乗せ保険
	留学先大学にあった医療保険制度
	BUPA
	留学中に受けた診察(もし差し支えなければ記入してください)
	皮膚科に行き診療を受けましたが、保険が適用になり、診察から薬まですべて無料になりました。Ossmaの上乗せ保険はまずossmaに電話をして症状報告をし、病院を紹介してくれるという形でした。
7	費用について教えてください(実際にかかった費用のみ記入してください)
	(現地通貨)
	渡航旅費 78,000 円
	帰国旅費 905 85,975 円
	引越し(往復で) 0 円
	保険 78,620 円
	語学研修費 6,675 634,125 円
	留学先学費 4,745 450,775 円
	本学学費 200,000 円
	教材費 0 円
	住居費 7,145+5,262 1,178,619 円
	食費 400,000 円
	その他(日用品) 100,000 円
	(お土産代) 30,000 円
	( ) 円
	合計 およそ3,236,114 円
	換算率 ( 1豪ドル = 95 円)
	受給した奨学金(留学用、給付)があれば記入してください
	JASSO奨学金
8	留学前の準備について教えてください
	日本から持参すべきもの
	・就活に必要な物(SPI、スーツなど)→私はオンラインで就活をしていたので、インターンや就活を控えている人は必要です。
	・防寒具→思っていたより寒い時期の方が多かったなので、必要になることが多いと思います。(12月~3月以外は寒く、夏でも夜は寒かったです=メルボルンは1日の中に四季があるらしい)
	・いらなかったもの→日本食(結局余ります)、ドライヤー(現地でも買って安い)、洋服(かさばるし、結局現地のファッションに興味を持ってセールなどで買うことになる)
	留学前にしておけばよかったこと
	英語の勉強=主にスピーキング→英語に自信があったらもっと友達ができただのではないかと考えています。就活の準備→オンラインでできることには限りがあるので、本での情報収集などをしておけばよかったと思いました。さらに、日本の知識を豊富に持つことで、日本人としての意見を求められた際、自分の経験などから発言しやすくなります。

9	<p>適応しにくかったこと(学習面・生活面)があれば、記入してください</p> <p>学習面:授業中の発言力です。海外の大学ではただ講義を受けているだけでは授業に参加したことにはなりません。私は、自分の英語力に自信がなかったことからはじめは発言を避けていました。しかし、毎授業発言しないことに後悔し、少しずつ発言する回数を増やすことで自分に自信をつけながら授業に参加することができました。積極性がカギになると思います。生活面:気候です。一日に四季があるメルボルンでは昼は日差しが強く、夕方から夜は凍てつく寒さに耐える必要があるので、日傘や羽織ものをうまく活用して過ごしていました。</p>
10	<p>留学の成果(学習面・精神面)を教えてください</p> <p>学習面:英語に関しては、留学前よりも4技能それぞれ上がったと思います。語学学校でwritingとreadingはかなり練習しましたし、listeningとspeakingは生活しているだけで自然に上がりますが、バイトやクラブなど自分で進んで現地コミュニティに入ることが重要であると考えます。また、講義はもちろんですが他の学生とのディスカッションを通して日本とは異なる切り口でトピックを考えることができたことで、価値観が広がりました。課題に関しても、社会課題解決のためのプロジェクトや草の根キャンペーンのグリーンフングペーパーを作るなどこれまで行ったことのないクリエイティブなもので、文献だけに頼らない自分の思考力を伸ばすことができました。精神面:はじめは慣れない環境の中体調を崩したり、英語が思うように話せないと自信を無くすことがありました。しかし、積極的に外に出て多くの人と出会ったり、経験をするにつれてどんなことにもひるまず、挑戦ができるようになったと思います。また、英語もおおそれずどんどん話すことによって言いたいことが言えるようになっていくのでコミュニケーションを積極的に取ることが重要でした。授業中も勇気をだして発言することでディスカッションに良い影響を与えられていると成長を感じ、人前で意見を発言するハードルが下がりました。</p>
11	<p>今後の学習計画および進路について(就職活動)教えてください</p> <p>現在就職活動中です。</p>
12	<p>留学を目指す後輩へのメッセージをお願いします</p> <p>ホームステイの場合、deakinの語学学校の日本人の割合が高いことからハウスメイトもすべて日本人だったため、はじめは理想の留学環境を整えることに苦戦しました。できれば寮の方がいいです。留学前にIELTSなどのスコアを少しでも上げてストレートで学部の授業に行くか、語学学校を最低でも5週間までにすることをおすすめします。実は、私ははじめ、4年時の後期という中途半端な時期から留学をするかどうか迷っていました。自分がこれまで普通の人生のルールに沿って生きてきて、卒業を1年遅らせること、同級生から遅れをとることを恐れていたからです。しかし、就活をしていても、留学をしたいという思いが強く、あきらめきれませんでした。具体的には、移民の研究のため自分が移民とし他の国で過ごし、生きづらさや障壁を感じることで移民の気持ちを理解したいという思いがあったため、今回協定校に応募し留学を実現することができました。結果として、移民として予測していない課題や困難にも直面し、自分の課題解決力を試された留学になりました。そして、実際に現地で暮らしている他の移民の方々の話を聞くことができ、本当に意味のある留学になりました。この経験から私が伝えたいことは、自分がやりたいことはあきらめてはいけないということです。いかなる理由であれ、留学をしたいと思ったら行くべきだと思います。現地で出会った留学生はみな強く生きていました。受ける刺激も今後の自分に大きく影響すると思います。そして、オーストラリア、特にメルボルンは大学が多く、留学生、移民が多いので多くの学生に会うことができます。彼らとの出会いが大きな産物になりました。留学先に迷ったらメルボルンをおすすめします。都市も自然もほどよくあり、多文化共生を身を持って感じることができるはずです。</p>
13	<p>その他、ご自由に意見を書き込んでください</p>

※本報告書は国際センターホームページに掲載します。下記のいずれかに✓をしてください。

国際センターホームページへの報告書の掲載を

( 許可する (写真含む)       写真掲載のみ不可       許可しない )

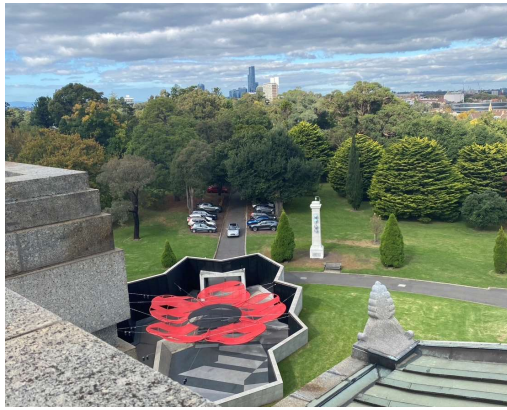
※写真の掲載を許可する場合は、写真に写っている全員の許可をとってください。

※Web掲載を許可する場合は、報告書は手書きではなくパソコンで入力してください。

※ホームページに掲載する際は、個人情報(学籍番号および氏名)は非公開とします。



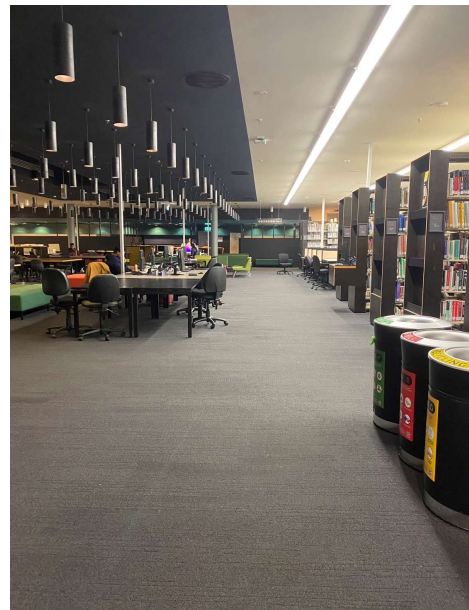
町のシンボルであるFlinders street station



ANZAC DAYの戦争慰霊記念館です。



ルームメイトとcityに遊びに行った時の写真です



Deakinの図書館です



旅行でUluruを訪れた時の写真です



→大学内にあるカフェの写真です。